

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	熱環境シミュレーション小委員会		主 査 名：尾崎明仁 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：久野 覚 主 査 名：猪岡達夫
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2011 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱環境シミュレーションのための先進のソフトウェアとアルゴリズムについて検討・整理する。</li> <li>・ 数値シミュレーションソフトウェアを Web, 書籍, CD-ROM 等により公開することで, 教育・研究・実務に役立てる。</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：なし		
	主査：尾崎明仁 (京都府立大学), 幹事：永田明寛 (東京都立大学), 委員：赤司 泰義 (九州大学), 石野久彌 (元東京都立大学), 猪岡達夫 (中部大学), 宇田川光弘 (工学院大学), 内海康雄 (宮城工業高専), 永村一雄 (大阪市立大学), 武田 仁 (東京理科大学), 林 徹夫 (九州大学), 藤井晴行 (東京工業大学), 松本真一 (秋田県立大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	熱環境シミュレーションソフトウェアの研究・開発 WG 建築デザインや建築環境工学を勉強する学生やエンジニアが建物の構成と熱環境の関係について簡便に確認できる教育用ソフトウェアを整備する。活動成果を Web, 書籍, CD-ROM 等の適切な方法で公開する。		
2010 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス：http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s13/comAgen.html	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 建築・都市環境に係わる熱環境シミュレーションの最新の研究について検討した (達成度 80%)。 2. 熱環境シミュレーションのための先進のソフトウェアやアルゴリズムについて検討した。(達成度 80%)
委員会活動の問題点 ・課題	1. 実務作業を進められる委員が限られている。 2. 熱環境シミュレーション分野における既存の資源を積極的に公開することが課題である。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2010 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
<p style="text-align: center;">総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本小委員会は、熱環境シミュレーションに係わる現行および先進のアルゴリズムとコードについて検討・整理し、ホームページおよび CD-ROM 付書籍の出版等により公開することで、建築物理モデルの体系化、既存ソフトウェアの有効利用、持続的なプログラムの開発、ならびにそれらの教育・研究・実務への活用を目的としている。</p> <p>2010 年度は、伝熱小委員会と合同の研究会において最新の研究について議論した。昨年開催した第 39 回熱シンポジウム「熱環境シミュレーションの拡がり」からさらに発展させて、熱環境シミュレーションの利用と最前線、建築システムシミュレーション、行政ツールと市販ソフトウェアの現状、教育用ソフトウェアなどの研究開発を進めた。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。